

令和8年度

音 楽

(解答はすべて音楽解答用紙に記入すること)

この試験問題は持ち帰ることができます。
なお、本問題で利用した著作物は、著作権法第36条により、
試験の目的上必要と認められる限度において複製したものです。
同目的以外の利用はできません。

(長野県教育委員会)

受験 番号						氏 名	
----------	--	--	--	--	--	--------	--

【注意1：声を出して歌ったり、音を立てて拍子を取ったりしないこと】

【注意2：〔問1〕及び〔問2〕は、放送を聴いて答えること】

〔問1〕 放送を聴きながら答えなさい。

- (1) リズムの聴き取りです。演奏は3回繰り返します。聴き取ったリズムをリズム譜に書きなさい。
- (2) 旋律の聴き取りです。演奏は3回繰り返します。聴き取った旋律を楽譜に書きなさい。
- (3) 2声の旋律の聴き取りです。演奏は3回繰り返します。聴き取った旋律を楽譜に書きなさい。

〔問2〕 放送を聴きながら答えなさい。

- (1) Aの曲を聴いて答えなさい。
 - ① この民謡の名称を書きなさい。
 - ② 次の文は、この民謡についての説明である。文中の **a** ~ **d** に当てはまる適切な語句を下の語群ア〜クから選び、記号を書きなさい。

これは **a** の民謡であり、遊牧民の婚礼や祝い事、祭りの際に歌われてきました。拍の **b** 音楽で、装飾音的に音高を上行・下行させて歌う技法が特徴的です。伴奏には、**c** という **d** が用いられることがあります。

〔語群： ア パキスタン イ モンゴル ウ ある エ ない
 オ モリンホール カ タブラー・パーヤーン キ 擦弦楽器 ク 撥弦楽器〕

- (2) Bの曲を聴いて答えなさい。
 - ① この曲の曲名を書きなさい。
 - ② 次の文は、この曲についての説明である。文中の **a** ~ **d** に当てはまる適切な語句を下の語群ア〜クから選び、記号を書きなさい。

この曲は **a** によって作曲されたと伝えられています。**a** は現在の **b** 県で生まれ、**c** 時代初期に活躍し、箏曲の基礎を確立したといわれています。
この曲は、**d** で演奏されます。**d** は箏の最も基本的な調弦法で、**a** が考案したと伝えられています。

〔語群： ア 宮城道雄 イ 八橋検校 ウ 福島 エ 宮城
 オ 室町 カ 江戸 キ 雲井調子 ク 平調子〕

- (3) Cの曲を聴いて答えなさい。
 - ① この曲の曲名と作曲者名、作曲者の出身国名を書きなさい。
 - ② この曲を演奏している楽器名を書きなさい。
 - ③ この曲は、始めに示された主題が、次々と加わる他の声部によって繰り返されながら発展していく形式である。この形式名を書きなさい。

- (4) Dの曲を聴いて答えなさい。
 - ① この曲の曲名と作詞者名、作曲者名を書きなさい。
 - ② この曲の冒頭「ゆうやけこやけの」の部分の旋律を変ホ長調で、拍子記号、調号を含めて楽譜に書きなさい。ただし演奏記号は除くこと。
 - ③ この曲の形式を下の語群ア〜エから選び、記号で答えなさい。

〔語群： ア 一部形式 イ 二部形式 ウ 三部形式 エ 複合三部形式〕

- (5) Eの曲を聴いて答えなさい。
 - ① この曲の作曲者名を書きなさい。また、作曲者の出身国名を現在の国名で書きなさい。
 - ② この曲に記されている各標題の説明について、適切なものを下の語群ア〜ウから全て選び、記号を書きなさい。

〔語群： ア 「森の狩猟」では、狩人が角笛を鳴らす様子をホルンが付点のリズムで演奏している。
 イ 「月の光、水の精の踊り」では、踊りの様子を弦楽器がスタッカートで演奏している。
 ウ 「聖ヨハネの急流」では、急流の様子を金管楽器等で演奏している。〕

- (6) Fの曲を聴いて答えなさい。
 - ① この曲の作曲者名と作曲者の出身国名を書きなさい。
 - ② この曲の作曲者の作品を下の語群ア〜エから全て選び、記号を書きなさい。

〔語群： ア E. T. イ 美女と野獣 ウ スター・ウォーズ エ ハリー・ポッターと賢者の石〕

- (7) (3)のCの曲から(6)のFの曲の作曲者について、生まれた年が早い順に左から並べ、C〜Fの記号を書きなさい。

【問3】 次の問いに答えなさい。

(1) 中学校第2学年「日本と世界の弦楽器に親しもう」の題材で、Aさんは三味線に興味をもち、複数の文献から調べたことを以下のようにまとめました。

【三味線についてAさんの調べたこと】

- ・三味線は、**a** の「三弦」が **b** に伝わり、それがもとになり、日本独自の楽器に変化した。
- ・現在でも **c** や、郷土芸能に用いられる。
- ・棹の太さによって、細棹、中棹、太棹に大別され、長唄では **d** の三味線を用いる。
- ・三味線を本調子で演奏する時は、一の糸と三の糸は **e** 音名の音になる。
- ・ばちを打ち下ろすのが基本の奏法であるが、弦に対して下から上にばちをあてる、**f** という奏法もある。
- ・三味線では、様々な音の高さを得るために左手で糸を押さえる。押さえるときの正しい位置のことを **g** とよぶ。
- ・演奏に用いられる楽譜で、糸に見立てた横書きの3本の線上に必要な情報が書かれたものを **h** とよぶ。
- ・一の糸を弾いたときに生まれる、雑音を含む共振を **i** とよぶ。

① 【三味線についてAさんの調べたこと】の **a** ~ **i** に当てはまる適切な語句を以下の【語群】から選び、ア～ツの記号を書きなさい。

【語群】

ア 朝鮮	イ 中国	ウ 琉球	エ 東北	オ 民謡	カ 雅楽	キ 細棹
ク 太棹	ケ 同じ	コ 異なる	サ タタキ	シ スクイ	ス 柱	セ 勘所
ソ 文化譜	タ 工工四	チ ニジリ	ツ サワリ			

② 伝統楽器では、旋律を覚えたり伝えたりするために、奏法や音の感じを表すための「唱歌」を用いる。三味線で多くの場合に用いられる唱歌のことを何と呼ぶか書きなさい。

(2) 三味線を学習したAさんは、多くの国で演奏されている弦楽器であるギターに興味をもち、複数の文献から調べたことを以下のようにまとめました。

【ギターについてAさんの調べたこと】

- ・ギターのルーツは古代ギリシャで生まれたキタラと考えられ、キタラの誕生後、a ギターの仲間に分類される楽器が多数現われた。
- ・20世紀になると、独奏用に確立されたクラシック・ギターの他に、b フォーク・ギターやエレキ・ギターなど、様々な種類のギターが作られるようになった。
- ・6本の弦で演奏されるギターでは、一番太い弦を第 **c** 弦と呼ぶ。
- ・ギターはヘッドにあるペグを締めたりゆるめたりして d チューニングを行う。
- ・演奏する時には、左手で弦を押さえて音の高さを変えて演奏する。その際に、フレットの **e** を、指板に対して力がなるべく垂直にかかるように押さえる。
- ・クラシック・ギターでは、右手は主に、f ポヤンドとアル・アイレの2つの奏法を用いて演奏する。
- ・ギターは旋律を演奏するだけでなく、g 伴奏をすることにも適した楽器である。

① 下線部 a について、フレットのあるネックをもつものを下の語群ア～エから2つ選び、記号を書きなさい。

[語群：ア ヴァイオリン イ ウクレレ ウ マンドリン エ ハープ]

② 下線部 b について、弦に用いられる素材を下の語群ア～ウから1つ選び、記号を書きなさい。

[語群：ア ナイロン イ 金属 ウ 羊の腸]

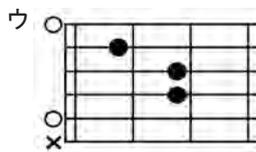
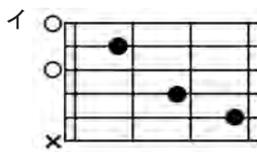
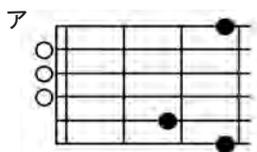
③ **c** に当てはまる数字を書きなさい。

④ 下線部 d について、一般的なチューニングをした際の、第3弦の開放弦の音高を全音符で五線譜に書きなさい。

⑤ **e** に当てはまる言葉を書きなさい。

⑥ 下線部 f について、弦を弾いた後の指の動きをどのようにするか書きなさい。

⑦ 下線部 g について、次のア～ウはギターコードのダイアグラムである。それぞれのダイアグラムが示すコードネームを下の選択肢 [] から選んで書きなさい。(○…開放弦 ●…押さえる ×…弾かない)



選択肢 [G Am C E]

- ⑧ 次の楽譜は、ギターで弾き歌いをするときの歌唱部分の旋律の楽譜である。その際、人差し指で2本以上の弦を同時に押さえるギターコードの使用を少なくするために、この楽譜（F Dur）の音高を長三度上げてA Durで演奏したい。移調した楽譜を五線譜に書きなさい。なお、正しい調号を記入すること。



〔問4〕 次の問いに答えなさい。

次の文章は、「中学校学習指導要領」（平成29年3月）第2章 第5節 音楽 の一部である。本文に即して、～に当てはまる語句を書きなさい。

第1 目標（略）

第2 各学年の目標及び内容

〔第1学年〕（略）

〔第2学年及び第3学年〕

1 目標（略）

2 内容

A 表現

- (1) 歌唱の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 歌唱表現に関わる知識や技能を 生かしたりしながら、曲にふさわしい歌唱表現を すること。

イ 次の(ア)及び(イ)について理解すること。

(ア) 曲想と音楽の や歌詞の内容及び曲の背景との関わり

(イ) 声の音色や響き及び言葉の と曲種に応じた発声との関わり

ウ 次の(ア)及び(イ)の技能を身に付けること。

(ア) を生かした表現で歌うために必要な発音、言葉の発音、身体の使い方などの技能

(イ) を生かし、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能

(2)（略）

(3)（略）

B 鑑賞

(1)（略）

〔共通事項〕

- (1) 「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じしながら、 したことと感受したこととの関わりについて考えること。

イ 音楽を形づくっている要素及びそれらに関わる用語や記号などについて、音楽における働きと関わらせて理解すること。

第3 指導計画の作成と内容の取扱い

- 1 指導計画の作成に当たっては、次の事項に配慮するものとする。

(1) 題材などの内容や時間の を見通して、その中で育む ・能力の育成に向けて、生徒の ・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、音楽的な ・考え方を働かせ、他者と協働しながら、音楽表現を生み出したり音楽を聴いてそのよさや美しさなどを見いだしたりするなど、思考、判断し、表現する一連の過程を大切に学習の充実を図ること。

(2)～(6)（略）

- 2 第2の内容の取扱いについては、次の事項に配慮するものとする。

- (1) 各学年の「A表現」及び「B鑑賞」の指導に当たっては、次のとおり取り扱うこと。

ア（略）

イ（略）

ウ（略）

エ 生徒が様々な感覚を関連付けて音楽への理解を深めたり、 に学習に取り組んだりすることができるようにするため、コンピュータや教育機器を効果的に活用できるよう指導を工夫すること。

オ 生徒が学校内及び公共施設などの学校外における音楽活動とのつながりを意識できるようにするなど、生徒や学校、地域の実態に応じ、生活や社会の中の音や音楽、 と に関わっていくことができるよう配慮すること。

カ（略）

(2)～(10)（略）